

日本航空宇宙学会論文の p \LaTeX 2 ϵ クラススタイルファイルの使い方^{*1}

How to Use a p \LaTeX 2 ϵ Class File (jjsass.cls)

航空 太郎^{*2,*3}・宇宙 花子^{*4}・スミス エアロ^{*5}

Taro KOKU, Hanako UCHU and Aero SMITH

Key Words: Class, Abstract, Section

Abstract: 本著 (論文のこの部分は英文です) では, 日本航空宇宙学会論文集および航空宇宙技術 (以後, 論文集と呼ぶ) への投稿に際し, p \LaTeX 2 ϵ クラススタイルファイルを利用して論文作成を行うために必要なスタイルファイル「jjsass.cls と jsasseq.sty」の解説を行っている. この sample.tex 自身が jjsass.cls でコンパイルでき, 組版体裁のサンプルにもなっている. jjsass.cls は p \LaTeX 2 ϵ 標準のスタイルファイルである jarticle.cls および jart10.clo をもとに論文誌の体裁にあわせてカスタマイズしたものである. このため, p \LaTeX 2 ϵ 標準のコマンドやパラメータ類の定義を変更している. また, 新たに作成したマクロもあるので, よくこのマニュアルを読み原稿執筆に取り掛かる必要がある.

1. ファイルの記述

論文を作成するとき, \TeX ファイルは以下のように記述する.

%%日本航空宇宙学会論文用クラススタイルファイル

\documentclass[JSASS]{jjsass}%

%日本航空宇宙学会論文集 (論文) の場合

\documentclass[JSASS, NOTE]{jjsass}%

%日本航空宇宙学会論文集 (研究ノート) の場合

\documentclass[ASTJ]{jjsass}%

%航空宇宙技術 (論文) の場合

\documentclass[ASTJ, NOTE]{jjsass}%

%航空宇宙技術 (技術ノート) の場合

\usepackage[dvipdfmx]{graphicx}

%% 画像取り込みスタイルファイル

\usepackage{jsasseq}

%%数式環境の再定義マクロスタイルファイル

\nensuu{2025}%%年数

\tuki{10} %% 月

\vol{50} %% 巻

\no{5} %% 号

\setcounter{page}{1}

%%ページ番号

\setcounter{sopage}{387}

%%年間総ページ番号

\datereceived{2025}{10}{2}

%%原稿受付日付 (西暦)

%%\datereceivedtuika{20YY年MM月DD日, 第65回 宇宙科学技術連合講演会で発表}

%%講演会発表 原稿受付の前に追加内容があるとき

\jtitle{日本航空宇宙学会論文の p \LaTeX クラススタイルファイルの使い方}

%%和文タイトル

\etitle{How to Use a p \LaTeX

Class File (jjsass.cls)}

%%英文タイトル

\author{

\jname{航空}{太郎}

%和文名前

\thanks[taro.koku@aero-u.ac.jp]{\thanks{航空大学大学院}}

\jname{宇宙}{花子}

%和文名前

\thanks{宇宙大学大学院}

^{*1} © 2025 日本航空宇宙学会
20YY 年 MM 月 DD 日, 第 65 回 宇宙科学技術連合講演会で発表

2025 年 11 月 2 日原稿受付

^{*2} 連絡先著者 (Corresponding author): taro.koku@aero-u.ac.jp

^{*3} 航空大学大学院

^{*4} 宇宙大学大学院

^{*5} 宇宙航空研究開発機構

```

%% 著者所属
\kname{スミス}{エアロ}
%和文名前
\thanks{宇宙航空研究開発機構}\
\ename{Taro}{Koku},
%英文名前
\ename{Hanako}{Uchu} and
%英文名前
\ename{Aero}{Smith}
%%英文名前
}
\begin{document}
\begin{keywords}
%%キーワード
\end{keywords}

\begin{abstract}
本著 (論文のこの部分は英文です) では, 日本航空宇宙学会
論文集および航空宇宙技術 (以後, 論文集と呼ぶ) への投稿
に際し, p\LaTeXe{}クラススタイルファイルを利用して論
文作成を行うために必要なスタイルファイル「jjsass.cls
と jsasseq.sty」の解説をおこなっている.
この sample.tex 自身が jjsass.cls でコンパイルでき,
組版体裁のサンプルにもなっている.
jjsass.cls は p\LaTeXe{}標準のスタイルファイルであ
る jarticle.cls および jart10.clo をもとに論文誌の
体裁にあわせてカスタマイズしたものである. このため,
p\LaTeXe{}標準のコマンドやパラメータ類の定義を変更
している. また, 新たに作成したマクロもあるので, よく
このマニュアルを読み原稿執筆に取り掛かる必要がある.
\end{abstract}
%%概論
\maketitle

\section{ファイルの記述}
本文 .....

\begin{thebibliography}{99}
\bibitem{1}
Donald E. Knuth. Virtual Fonts:
More Fun for Grand Wizards.
\end{thebibliography}
\end{document}

```

以上は $\mathrm{T}_{\mathrm{E}}\mathrm{X}$ で論文を作成するときの大体の手順である.

2. プリアンブルについて

プリアンブルの中にはパッケージを追加したり, マクロを定義したりすることができる.

ここでは以下のファイルは必ず取り込むこと.

```
\usepackage[dvips]{graphicx}
```

```
\usepackage{jsasseq}
```

また,

```
\usepackage{jsasseq}
```

というマクロファイルは数式の定義を変更しているので, 必ず一番最後の順に取り込むこと.

論文に関わる新定義のコマンドは以下ようになる. 必要に応じて使うこと.

- $\backslash\mathrm{nensuu}\{2002\} \Rightarrow$ 年
- $\backslash\mathrm{tuki}\{10\} \Rightarrow$ 月
- $\backslash\mathrm{vol}\{50\} \Rightarrow$ 巻
- $\backslash\mathrm{no}\{5\} \Rightarrow$ 号
- $\backslash\mathrm{setcounter}\{\mathrm{sopage}\}\{ \} \Rightarrow$ 総ページ
- $\backslash\mathrm{jtitle}\{ \} \Rightarrow$ 和文タイトル
- $\backslash\mathrm{jsubtitle}\{ \} \Rightarrow$ サブ和文タイトル
- $\backslash\mathrm{etitle}\{ \} \Rightarrow$ 英文タイトル
- $\backslash\mathrm{esubtitle}\{ \} \Rightarrow$ サブ英文タイトル
- $\backslash\mathrm{author}\{ \} \Rightarrow$ 著者内容
- $\backslash\mathrm{jname}\{ \} \Rightarrow$ 和著者名
- $\backslash\mathrm{ename}\{ \} \Rightarrow$ 英著者名
- $\backslash\mathrm{kname}\{ \} \Rightarrow$ 外国人著者名 (カタカナ)
- $\backslash\mathrm{thanks}\{ \} \Rightarrow$ 所属 (責任著者に対しては, 鍵括弧オプションでメールアドレスを記載すること)

3. 本文について

本文を始める前に, キーワードとアブストラクトに該当する文を入れる.

```

\begin{document}
\begin{keywords}
.....
\end{keywords}
\begin{abstract}
.....
\end{abstract}
\maketitle

```

このコマンドでタイトルを表示する.

本文は

見出し \rightarrow $\backslash\mathrm{section}$

小見出し \rightarrow $\backslash\mathrm{subsection}$

数式環境

箇条環境

など, 標準の $\mathrm{IAT}_{\mathrm{E}}\mathrm{X}$ のコマンドを利用して, 論文を作成する.

最後,

```

\begin{thebibliography}{99}
\bibitem{参照名}
.....
\end{thebibliography}
\end{document}

```

